

レーベンスティール *Lebensstil*

牡 鹿毛 2020.3.8生
北海道日高町 広富牧場生産
馬主・宥キャロットファーム 美浦・田中博康厩舎
馬名意味・生き様(独)。父名、母名より連想。生き様が魅了する馬になるように

マギーグズNZ系 F5

リアルスティール 鹿毛 2012	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	ラヴズオンリーミーUSA 鹿毛 2006	Storm Cat Monevassia
トウカイライフ 黒鹿毛 2007	トウカイテイオー 鹿毛 1988	シンボリルドルフ トウカイナチュラル
	ファヴォリ 青鹿毛 1996	リアルシヤダイUSA ペイリフスイータ

5代までのインブリード: Hail to Reason S5×M5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

高橋三千代代表(広富牧場)

皆さんのお力があったからこそ勝利です

父の代から25年来お付き合いのあるご夫妻とスタッフと一緒にテレビで見ました。私はあの位置からでは届かないと思っていましたが、「届くよ!」という周りの声に励まされながらゴールを迎え、皆で喜び合うことができました。田中厩舎の皆さん、ルメール騎手はもちろんのこと、期待に応えてくれた馬自身にも感謝します。皆さんのお力があったからこそ勝利です。

K.Miura



セントライト記念で重賞初制覇を果たした後は香港ヴァーズ8着、今年の始動戦・新潟大賞典も11着と精彩を欠いた本馬だが、続くエプソムCでは「世代トップレベル」と評されてきた実力を改めて証明。夏休みを挟んで臨んだこの日も、着差以上の強さを感じさせる走り、重賞連勝を飾った。心身ともに逞しさを増した4歳の秋。勢いに乗ってこのまま頂点へ駆け上がるか。

父リアルスティール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦4勝(ドバイターフ^{G1}、毎日王冠^{G1}、共同通信杯^{G1}、皐月賞^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着、天皇賞(秋)^{G1}2着、神戸新聞杯^{G1}2着、スプリングS^{G1}2着、ドバイターフ^{G1}3着)、19年から日、豪で供用〔代表産駒〕**フォーエバーヤング**(全日本2歳優駿^{J1}、UAEダービー^{G2}、サウジダービー^{G3}、JBC2歳優駿^{J1}Ⅲ、ケンタッキーダービー・米^{G1}3着)、**レーベンスティール**(本馬)、**オールバルフェ**(デイル杯2歳S^{G1})、**チカッパ**(北海道スプリントC^{J1}Ⅲ)、**ノイジーボーイ**Noisy Boy(タロックスS・豪^{G2}2着)、**アレンジャー**(アーリントンC^{G1}2着)、**ドナベティ**(ファンタジーS^{G1}2着)、**ヴェローチェエラ**(京都新聞杯^{G1}3着)、**トーホウガレオン**(シンザン記念^{G1}3着)、**アグラシアド**(スイートピーS・L3着)

母トウカイライフ

北海道日高町 広富牧場生産 中央35戦3勝、地方3戦1勝
ロトヴィンテージ(15 牡父ヴァーミリアン)中央3戦0勝
サーチュイン(16 牝父クロフネUSA)中央17戦1勝、地方17戦1勝
ルーチェデラヴィタ(17 牝父キズナ)中央24戦2勝(コスモス賞^P)
ブラックライフ(18 牝父ブラックタイド)中央12戦0勝、地方16戦1勝
レーベンスティール 本馬(20 牡父リアルスティール)中央9戦5勝(オールカマー^{G1}、セントライト記念^{G1}、エプソムC^{G1}、ラジオNIKKEI賞^{G1}3着)、香1戦0勝 獲得総賞金195,746,000円
ティオームサシ(22 牡父ナダルUSA)中央4戦0勝 ⑩
(24 牡父モーリス)
※19(前年種付せず)、21(流産)、23(生後直死)

祖母ファヴォリ

北海道門別町 広富牧場生産 中央3勝(蔵王特別)、16年用途変更
グラマトフィラム(04 牝父クロフネUSA)中央2勝
カンタカ(05 牝父ジャングルポケット)中央0勝、地方10勝
トウカイライフ(07 前出)
オールマイウェイ(10 牡父サクラバクシンオー)地方7勝(かきつばた賞、桂樹杯2着、せきい賞3着、はまなす賞3着)

母の父トウカイテイオー

北海道新函館 中央9勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、有馬記念^{G1})
〔BMS代表産駒〕**ブレイブスマッシュJPN** Brave Smash(マニカトS・豪^{G1}、フューチュリティS・豪^{G1}、サウジアラビアロイヤルC(重賞)、父トセウフアントム)、**ヴィーヴァヴォドカ**(フラワーC^{G1}、父ダンスインザダーク)

底力を示して重賞3勝目をマーク

6月のエプソムCを鮮やかに差し切った後、ひと息入れて秋に備えていたレーベンスティールがここから始動。秋の天皇賞の前哨戦と位置付けられているオールカマーは、同舞台で争われた昨年のセントライト記念の覇者でもあるこの4歳牡馬が圧倒的な支持率1・5倍を集めた。展開の緩に足をすくわれかけた同馬だが、終わってみればさすがの底力を示して重賞3勝目をマーク。念願のGI制覇に向けて足場を固めた。

函館記念(3着)、札幌記念7着と続けて先導役を務めてきたアウスヴアールが、この日も軽快に飛び出して先頭へ。同型不在の顔合わせとあって競りかける馬はなく、落ち着いた流れでレースは進む。好スタートを切り、少し行きたがる素振りも見せたレーベンスティールをなだめながら、C・ルメール騎手は3番手集団の一角を追走。函館記念(1番人気4着)からの巻き返しに期待がかかり、3番人気の支持を集めたサヴォーナがその外につけ、対抗候補と目された札幌記念の3着馬ステラヴェローチェは2頭の背後で折り合いに専念した。

単騎の逃げに持ち込んだアウスヴアールは残り1000メートル地点から11秒台のラップを連発し、持久力勝負の流れをつくる。背後に迫ってきたリカンカブルを突き放した同馬に対し、レーベンスティールはなかなか進路が開かず、直線の坂下では絶体絶命の状況に。しかしルメール騎手が内ラチ沿いを狙って加速を促すと馬も鋭く反応。狭いスペースをこじ開けるようにして前に襲い掛かり、アウスヴアールを一気にかわしてゴールに飛び込んだ。

セントライト記念で重賞初制覇を果たした後は香港ヴァーズ8着、今年の始動戦・新潟大賞典も11着と精彩を欠いた本馬だが、続くエプソムCでは「世代トップレベル」と評されてきた実力を改めて証明。夏休みを挟んで臨んだこの日も、着差以上の強さを感じさせる走り、重賞連勝を飾った。心身ともに逞しさを増した4歳の秋。勢いに乗ってこのまま頂点へ駆け上がるか。